

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

年間テーマ	生き物
園名	中野区立かみさぎ幼稚園
学級名	4歳児もりの組
時期	5月

## 1. テーマ

アリを飼うにはどうしたらいいの？

### <テーマの設定理由>

アリを踏むことを面白がったり、つぶしても悪いと思わなかったりする幼児がいた。また、「怖い」と避ける姿も見られたため、教師は親しみや命の大切さを感じてほしいという思いがあった。




## 2. 活動内容

園庭でアリを見つけた幼児をきっかけに、アリの巣観察用の飼育ケースや絵本を教師が出し、幼児と土やアリをケースに入れる。学級のみんで共有し、もりの組で飼育をする。

## 3. 環境のデザイン 活動のために準備した素材や道具（・）、環境の設定（＊）

- ・アリ専用の飼育ケース
  - ・アリの飼育方法が描かれている図鑑
  - ・食パン
  - ・昆虫用ゼリー
  - ・ゼリーを掬うスプーン
- ＊学級の幼児が変化に気づきやすいよう、飼育ケースを保育室の中心に置く

## 4. 探究活動の実践

経験していること	子どもの言葉・姿
命の大切さ	<p>アリを捕まえようとするが、勢い余って潰してしまう A 児。            教師「動かなくなっちゃったね」            A 児「じゃあ、また捕まえればいいよ」            教師「でも、このアリさんは戻らないんだよ」            A 児「そっか…」            他にも潰してしまう幼児がいたので、学級のみんで共有する。「かわいそう」「そっと採ったらいい」と意見が出てきた。</p> 
興味・関心	<p>その後、また数人の幼児で捕まえようとする。「潰さないで捕まえられたよ」と気を付けて捕まえることに成功した。            教師「もりの組で飼ってみる？」            B 児「飼おうよ！アリの巣を作るかもよ」            教師「アリの巣が見えるようなケースがあるよ」            C 児「この本にあったよ。土をたくさん入れた方がいいって」            教師「よし！みんなで入れよう」            教師と数人の幼児でアリ飼育用のケースに土とアリを入れ、保育室に観察スペースを作る。</p> 
探究心・愛着	<p>絵本をもとに餌は何かよいかを考えて、食パンをあげたがあまり食べなかった。            A 児「何か別のものがあるのかも」            D 児「嫌いなのかな」 E 児「アリは甘いものが好きなんだよ」            ゼリーをあげてみると食べたので、「やったあ！食べた！」と喜び合う。</p> 
親しみ・発見	<p>毎日交代でえさをあげたり観察したりと、気に掛ける姿が増えていった。アリが少しずつ道を作っていることを知り、興味をもつ子どもたち。            二人の女児がアリが掘っている様子を見つめる。            F 児「こうやって掘っているね」 G 児「アリって力持ちなんだね」            二人で笑いながらアリの動きの真似をする。</p>

## 5. 振り返り

- 子どもたちの興味をもったタイミングで教師の意図を踏まえた投げかけをすることで、「捕まえる」だけでなく「飼育する」意欲をもつことにつながった。
- 深く考えずに潰していた幼児や怖がっていた幼児も育てる経験をする中で、親しみや好奇心を高めていった。大切にできる環境や機会をもつことが虫を命あるものとして価値付けることにつながった。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

年間テーマ	生き物
園名	中野区立かみさぎ幼稚園
学級名	5歳児そらの組
時期	9月

## 1. テーマ

セミは寒いとこない?

### <テーマの設定理由>

虫捕りに夢中なH児、I児、J児。教師は、ある生き物について幼児が問いや興味をもち、考えたり発見したりすることを楽しんでほしいと思っていた。



## 2. 活動内容

「セミの声が聞こえない」という問いについて動画で調べる。  
「セミ新聞」を作り、調べたことについて大きな紙に絵や文字でまとめる。

## 3. 環境のデザイン 活動のために準備した素材や道具（・）、環境の設定（\*）

- ・友達と一緒に調べたり見たりできるタブレット
- ・調べたことをまとめる大きな紙、クレパス、色鉛筆など
- \*まとめたもの（セミ新聞）は他児も見えるように壁面に飾る

## 4. 探究活動の実践

経験していること	子どもの言葉・姿
疑問・考える	<p>涼しい曇りの日に、教師が「今日なんだか、セミの声が聞こえないね」と言ったのを聞いて、セミの声が聞こえない理由を考える。</p> <p>H児「セミがいない?!涼しいからかな。」 I児「寒いからいないってこと?」 H児「多分…。本当かな?」</p>
気付き・発見	<p>タブレットで調べ、寒い時期に土の外に出て行こうとしたセミの幼虫の動画を見る。</p> <p>I児「土の外に出たのに、中に戻った! 寒い嫌なんだ」 H児「だから今日は声が聞こえないんだ」 H児「暑くなったらまた声が聞こえるかも」</p> 
新たな興味	<p>J児「あと、この幼虫、朝に出てきてるよね。ねぼすけゼミだよ。幼虫は夜にしか出てこないのに、間違えて朝に出ちゃうんだって」 H児・I児「え~!!」 J児「その後、木にとまって、抜け殻になって、羽が出てきて成虫になるんだよ」 I児「?(首をかしげる)」 教師「これも動画で見てみる?」 H児・J児・I児「うん!」</p>
探求心	<p>セミが幼虫から変態していく様子を動画で見て大興奮。教師の提案で、セミが寒いと出てこない様子やセミの成長段階を絵や文字で説明して、何日も作り進めていく。</p> 

## 5. 振り返り

- これまでたくさん虫捕りをし、虫に興味があったからこそ、問いをもち自分たちなりに考える姿につながった。
- 友達と一緒に調べたことを動画で見て、発見や気付きを共有したことが、セミについてさらに知りたいという意欲や探求心につながった。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

年間テーマ	生き物
園名	中野区立かみさぎ幼稚園
学級名	3歳児はなの組
時期	12月

### 1. テーマ

**カメのおうちをきれいにしたい!**

#### <テーマの設定理由>

入園時から保育室でカメ「ももちゃん」を飼育している。幼児と同じように誕生日を祝うなど学級の仲間として過ごしている。入園当初幼児は見るだけだったが、エサをあげると食べたことを喜び、毎日エサをあげるようになった。また、ケースから出して散歩させることを教師と一緒に楽しむ様子も見られた。一員としてなじんできているところから、興味を広げ関わらせたいと思い、カメの世話を投げ掛けることにした。



### 2. 活動内容

日常の中でカメのことは見たり関わったりできるようにする。教師と一緒に掃除や水替えをする。

### 3. 環境のデザイン 活動のために準備した素材や道具(・)、環境の設定(\*)

- ・ケースを洗う際にカメと石を入れておけるケース
- ・幼児が扱いやすい手付きのブラシ
- \*カメのエサだと分かるよう透明容器(乳酸菌飲料ペットボトル)に少量のエサを入れておく。

### 4. 探究活動の実践

経験していること	子どもの言葉・姿
愛着	<p>K児がカメを見ていることに気付いた教師が声を掛ける。 教師「水が汚れているね。うんちかな。」 K児「本当だ。きれいにしなきゃ」 教師「ブラシを使ってきれいにしようか?」 K児「うん」と掃除することにした。 それを近く見ていたL児も「僕もやりたい」と一緒に始める。 ブラシで使ってこすって汚れを落とそうとする。 教師「カメと石が入ったままではできないね」と投げ掛け、「別の入れ物に移してみようか」と提案する。 教師「こんなふうに両手で持って…」と示すと興味をもって真似しようとする。それぞれ石、カメを両手で持って移した。 掃除をしてきれいな水になったケースの中に移し替える。その後、カメの様子を見てK児「見て。きれいになってよかったね」 教師「(カメの)ももちゃんうれしそうだね。」 それを聞いて二人とも笑顔になった。 その後、えさを2粒あげ「食べた!」と喜んだ。</p>
新たな関わり方	
関心の広がり	<p>翌日もケースをのぞき、K児「ももちゃん起きてる?」と関心をもっている。しかし寒くなってくると次第に動かなくなり、えさも積極的に食べなくなるカメを心配するようになった。</p> 

### 5. 振り返り

- 普段から身近で親しみを感じているカメに、エサをあげて喜んでくれるという経験だけでなく、うんちや汚れている水をきっかけに、きれいに掃除してあげたいという気持ちをもつことができた。
- 実際に掃除をしたことで“カメの存在”を感じ、より思いを寄せるようになった。